

シリーズ「職場での新型コロナウイルス感染症対策」

(その14) 持病があってもワクチン接種は可能？

Q1； 人工透析を受けています。ワクチン接種は可能ですか？

A1； 可能です。

むしろ、新型コロナウイルスに感染したら重症化しやすいので、特に接種が勧められます。高血圧・糖尿病・喘息・肥満・心筋梗塞・心不全・腎臓の病気などは「基礎疾患」とされ、優先接種の対象となっています。

Q2； がんの治療中です。ワクチン接種は可能ですか？

A2； かかりつけ医に可否を相談する必要がありますが、一般的には接種が勧められています。

がん・骨髄移植後・臓器移植後・先天性免疫不全・HIV に感染している、という場合は、免疫力が低下する傾向にあると考えられ、かかりつけ医に相談して判断することとなっていますが、基礎疾患がある方と同様、新型コロナウイルスに感染したら重症化しやすいので、一般的には接種が勧められます。なお、ワクチンの中にはウイルスそのものが入っているわけではありませんので、免疫が低下しているからといってワクチンからウイルスに感染することはあり得ません。一方で、免疫が低下していると、ワクチンの効果が低い可能性はありますので、ワクチンを接種した後もマスク・手洗い・ソーシャルディスタンスなどを守ることが重要です（免疫が低下していなくても守るべきとされています）。

Q3； てんかんの薬を飲んでいます。ワクチン接種は可能ですか？

A3； 安定していれば、かかりつけ医に相談のうえ、接種することができます。

子どもの頃に熱性けいれんを起こしたことがある人も、接種は可能です。ただし、接種後は副反応として発熱することがよくあるのですが、発熱したらけいれんを起こしやすいという場合は、解熱剤の使い方や発作時の対策をかかりつけ医にあらかじめ聞いておきましょう。

Q4； 妊娠中です。ワクチン接種は可能ですか？

A4； 可能です。ちなみに妊娠中・授乳中・妊娠計画中、どの状態でも可能です。

とはいえ、まだ歴史が浅いワクチンで、データの蓄積が少ないことが心配でしょうから、主治医と一緒にメリット・デメリットをよく検討して判断するとよいでしょう。産婦人科施設などでワクチン接種を行うことが望ましいですが、集団接種や産科のない診療所などで接種する場合は、接種前後 1 週間以内の妊婦健診が勧められているようです。